

仙台の特別支援教育が目指すもの
大切なひとり 共に生きるみんな

四つのテーマの取組状況

テーマ1 ふかめる

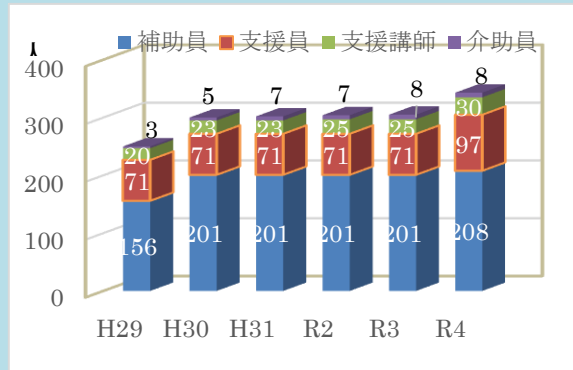
- 啓発資料の作成・配布を通して、市立学校の児童生徒や保護者、教職員の障害理解を深めました。
- 毎年小中学校10校がスポーツ・文化芸術活動等に取り組んでいる障害者との交流を行い、他者理解等に関する子供たちの様々な気付きを促すことができました。
- 新たに「特別支援教育フェスティバル2021」を開催し、市民への啓発活動を推進しました。
- ともに生きるプログラム等を実施し、交流及び共同学習を推進しました（令和3年度：17校）。
- 市民団体との共催行事「私たちの作品展」による市民啓発を行いました。
- 各種研修会において愛着障害等様々な障害の理解促進を図りました。
- オンラインや間接交流等による新たな居住地校交流を実施しました。



特別支援教育フェスティバル2021

テーマ2 つくる

- 通級巡回指導モデル事業を開始し、通級生の利便性向上や指導の充実を図りました。また高等学校等における通級指導の体制づくりを進め、運用を開始しました。
- 就学支援を必要とする児童生徒数の増加等に対応するため、「仙台市の就学支援の在り方について(最終報告)」をまとめられ今後の施策の方向性が示されました。
- 多様なニーズに対応するため、補助員・支援員等の人的配置を拡充しました。
- 病気療養児に対する遠隔教育の実施、個人用タブレットの校内使用に係る条件整備等、ICT活用環境づくりを進めました。
- モデルテキスト「令和2年度版仙台市の特別支援教育」「就学支援の手引き」等を作成し、各学校へ提供しました。
- 教育委員会内に指導看護師1名を配置し、要医療的ケア児童生徒にかかわる看護師、学級担任等への支援を始めました。



補助員・支援員等の人員配置

テーマ3 たかめる

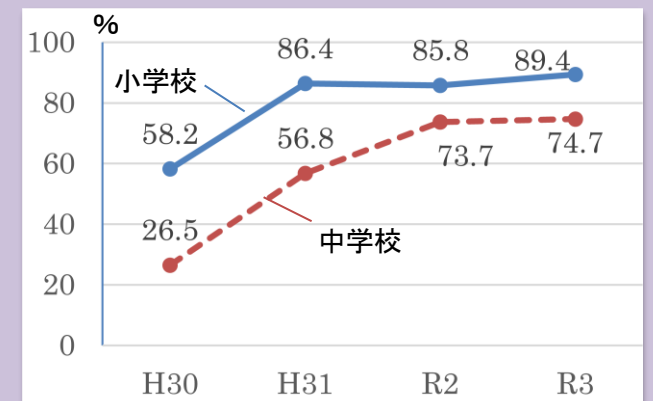
- 多層指導モデルMIMの導入や大学との連携事業等により、読み書きに困難のある児童生徒への教員の指導力の向上を図りました。
- パワーアップサポート事業や鶴谷特別支援学校からの外部専門家等の派遣により、派遣先の学級担任の指導力や学級経営力の向上を図りました。
- 実践研究協力校の取組を推進し、協力校の認定率を小学校99%、中学校90%に高めることができました。
- 指導主事等が学校を訪問し通級担当者や特別支援学級担任への指導助言を行いました。
- 市内小中学校の肢体不自由学級（小1、小4、中1）に作業療法士、理学療法士を悉皆派遣し、指導力の向上を図りました。
- 教員採用試験における特別支援学校教諭免許状所有者等への加点措置を実施しています。
- 教職員の指導力向上を目的とした特別支援教育課日より「ONE POINT」の全校への定期配信を始めました。



実践研究協力校報告会での実践発表

テーマ4 つなぐ

- 特別支援教育コーディネーターを対象とした研修会に児童館、放課後等デイサービス事業所等の職員が参加するなど連携が強化され、支援の円滑化が図られました。
- 関係部局との連携強化により、就学前からより適切な就学支援が行える体制づくりが進んでいます。
- 個別の教育支援計画等の作成率が増し、引継ぎ時における活用も進んでいます。
- 鶴谷特別支援学校において花壇の植栽や清掃活動等の双方向型の地域交流を行いました。
- 個別の配慮を要する児童生徒への対応等がまとめられた「いじめ対策ハンドブック」を作成しました（事務局：教育相談課）。
- サポートファイルを活用した幼保小の引継ぎ、中高連携サポートシートを活用した中学校から高等学校への引継ぎなど、一貫した支援の充実に努めました。



個別の指導計画作成率（通常の学級・発達障害）

★障害理解を深める研修や啓発資料の発行を継続するとともに、コロナ禍による新しい生活様式を踏まえた啓発の取組を行っていく必要があります。

★多様性に応じた教育機会の確保と充実を図るとともに、一人一人にとっての適切な学びを途切れることなく提供できる体制づくりを更に推進する必要があります。

★子どもの特性に応じた学びを促していけるよう教員の指導の質を高めること、特に特別支援学校のセンター的機能を十分に発揮するために鶴谷特別支援学校の専門性向上を一層進めていくことが必要です。

★個別の教育支援計画や指導計画など現在ある資源を有効に活用しながら、関係機関との横の連携の充実させること、生涯学習施策とも連携した切れ目ない支援を実現していくことが必要です。

課題